

## 令和元年度第2回岡山県自立支援協議会就労支援部会議事概要（要旨）

- 1 日 程 令和2年2月18日（火）
- 2 場 所 きらめきプラザ 702会議室
- 3 時 間 14：30～16：30
- 4 参加者 委員14名中14名出席  
※代理出席1名：県産業労働部労働雇用政策課：大島副参事
- 5 協議・報告
  - (1) 障害福祉計画及び障害児福祉計画に係る基本指針の見直し（厚生労働省社会保障審議会障害者部会抜粋）・(2) 第5期岡山県障害福祉計画・第1期岡山県障害児福祉計画（就労支援関係）の進捗状況について（障害福祉課）
    - ・特記事項なし。
  - (3) 議題提案
    - ①知的障害者の雇用促進について（増田委員）

（委員からの主な意見等）

      - ・行政が合理的配慮の観点も含めて積極的に関与し、そのノウハウを地域に繋げていけば、よりバランスが取れたものになると思う。
      - ・仕事内容について、その人が出来る部分に特化した内容を切り出し募集していればよいと思う。
    - ②市町村地域自立支援協議会就労支援部会との連携及び支援について（小川委員）

（委員からの主な意見等）

      - ・県の自立支援協議会就労支援部会と同様、各市町村地域の自立支援協議会にも、同様の部会が設置されている。地域で取り組んでいる好事例や、課題を吸い上げ、共有し合えるような場を県の就労支援部会として設けてみてはどうか。
    - ③障害のある人の就労定着等支援事業について（秋山委員）

（委員からの主な意見等）

      - ・県内において一般就労に移っていく者の数は順調に伸びているが、一方、その後の移行先に定着出来ていないという課題がある。次年度は、就労定着等支援アドバイザーという専属スタッフを1名配置する等、新たに就労定着等支援事業の実施を予定している。

**④農福連携の推進について（秋山委員）**

（委員からの主な意見等）

- ・農福連携サポートセンターでは、農業者と福祉事業所とのマッチングの支援や農業に取り組む福祉事業所への多面的な支援を実施しているが、今後の課題として、福祉事業所との連携強化と認知度アップが必要である。また、1年間を通じた作業委託が出来るような形等を作っていきたい。

**⑤岡山県セルフセンターの魅力発信について（秋山委員）**

（委員からの主な意見等）

- ・アクティブフリル浴衣の開発や共同受注拡大を図るための優先調達受注先事業所リストの作成等、新たな取り組みを実施してきたところであるが、岡山県セルフセンターの存在と役割については、認知度が十分ではない。
- ・優先調達の受注拡大を図る等が必要ではないか。

**⑥A型事業所の経営改善支援に係る今後の取組について（秋山委員）**

（委員からの主な意見等）

- ・本事業は令和2年度をもって3年の事業終期を迎えることになる。当該事業実施に至った経緯や目的等を踏まえ、令和3年度以降、改めてどのようにしていくべきか。
- ・障害者にとって、最低時給が833円、それが6時間働くと11万ぐらいになる。所得補償はとても大事である。引き続き、A型事業所が改善出来る支援を行ってほしい。